

TAKATSUKI

★農委だより

臨時特集号

臨時特集号
令和8年9月

編集・発行
高槻市農業委員会

〒569-0067

大阪府高槻市桃園町2番1号

TEL 072-674-7421

<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/>

森本 茂 会長

残暑の候、皆さま方におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。日ごろより本市農業委員会活動に格別のご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。このたびの委員改選に伴う、7月21日に開催されました「高槻市農業委員会臨時総会」におきまして、引き続き「会長」という重責を担うこととなりました森本でございます。改めて伝統ある高槻市農業委員会の会長を拝命し、身の引き締まる思いでございます。私自身微力ではございますが、同じく任命・委嘱された委員と力を合わせ、第一に現場の声に耳を傾けながら、ご期待に応えるべく、本市農業の発展及び振興にまい進する所存でございます。

就任のご挨拶

会長 森本茂氏を全会一致で再任 7月21日の臨時総会で

さて、農業委員会の職務として、定例総会での農地法等に基づく各種審議をはじめ、農地の利用集積、遊休農地の解消や新規参入の促進など、いわゆる農地の「最適化活動」の業務があり、また、農業者の代表機関としての立場で、地域農業や農地に関する課題をとりまとめ、市に意見書を手交するなど、農業施策が進むべき方向を示し、これの実現のために市と協力の上、あらゆる活動を行っております。

一方近年では、農業従事者の高齢化や後継者不足に加え、世界情勢の変化に伴う生産資材価格の高騰など、農業を取り巻く環境は多種多様な課題に直面しており、これは本市の農業者にとっても例外ではありません。

これまで、本市農業委員会が築き上げてきた実績を引き継ぎ、関係機関と連携をさらに強化しながら、新たに任命・委嘱された農業委員・推進委員、総勢20名が一致団結し、これら課題解決の一助となるべく、農業委員会としての責務を全力で全うして参りますので、なお一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。会長就任のあいさつとさせていただきます。

令和8年
臨時特集号

農業委員会の活動 〈令和8年7月～9月〉

- 7月 ● 第7回定例会
- 臨時総会（農業委員任命式・農地利用最適化推進委員委嘱式）
- 8月 ● 三島地区農業委員会連合会臨時総会
- 第8回定例会・第8回常任会議
- 9月 ● 第9回定例会・第9回常任会議



▲新委員による初総会

農業委員



常任委員
橋本 吾 陸
(芝生町一丁目)

高槻市の農業環境においては、高齢化及び後継者不足により、遊休農地の増加等を考え、農地利用最適化推進委員とともに、地域の活性化に取り組んでまいります。



常任委員
高谷 敏 宜
(塚脇一丁目)

高槻市の農業の発展のため、新たな都市型農業の創造、遊休農地の解消と新規就農の支援に積極的に取り組んでまいります。



常任委員
下村 正 人
(郡家本町)

農業を地域の中で意義がある存在とする為に、農業に携わる人の営農環境（耕作地・高齢化・新規就農・後継者問題）改善に努めてまいります。



常任委員
上田 佳 正
(唐崎中四丁目)

就農者の高齢化や後継者不足による耕作放棄農地の解消及び地域の実情に即した持続可能な農業形態を農業委員、推進委員の方々と模索してまいります。



副 会 長
藤 井 博
(富田町六丁目)

都市型農業に於いて高齢化、後継者不足による耕作放棄地等の増加を考え、農地利用最適化推進委員とともに農地の保全や農業振興に取り組んでまいります。



会 長
森 本 茂
(道鶴町二丁目)

都市農業の持続的発展のため農地の集積、新規就農の促進や担い手の育成等を実施しながら地域の実情を踏まえた農地保全に取り組んでまいります。

農業委員、推進委員が改選

任期は令和8年7月から3年間
よろしくお願ひいたします

7月21日、農業委員会臨時総会に先立ち、農業委員14名の任命式が執り行われました。また同日に農地利用最適化推進委員6名が農業委員会から委嘱されました。任期はともに令和11年7月19日までの3年間です。

臨時総会では役員の選任が行われ、会長には森本茂委員、副会長に藤井博委員、常任委員には上田佳正委員、下村正人委員、高谷敏宜委員、橋本吾陸委員がそれぞれ選出されました。今号では、就任にあたっての意気込みとともに各委員をご紹介します。（敬称略・役員をのぞき五十音順）



渡 邊 美 広
(大字出灰)

遊休農地の増加を防ぐため新規就農者を増やしていくことは益々重要であると思います。地域実行組合と連携して様々な課題に取り組んでまいります。



吉 田 秀 也
(氷室町二丁目)

遊休農地等の諸課題に対応するとともに、地域の実情に即した農地利用の最適化を推進し、持続可能な農業の実現に向け、職務に専念いたします。



中 村 玲 子
(古曽部町二丁目)

農業には人々の食料を供給する大事な役割があります。新規就農者も含めて希望をもって農業に取り組んでもらえるように頑張っております。



辻 崎 義 次
(本町)

都市農業は、担い手の高齢化や後継者不足等の課題がありますが、地域と連携して活力ある農業に各委員とともに取り組んでまいります。



久 保 隆
(唐崎中四丁目)

農業従事者の高齢化と担い手不足、耕作放棄地や遊休農地発生などの課題に対して地域事情に即した農地の課題解決に取り組んでまいります。



日下部 道 雄
(成合中の町)

農業従事者の高齢化や担い手不足による耕作放棄地や遊休農地が増えるなか、農地が適切に引き継がれていくような仕組みや環境づくりに取り組みます。



岸 田 英 雄
(大字原)

農業従事者の高齢化と後継者不足による耕作放棄地や遊休農地の解消と、農家の営農環境の改善に取り組んでまいります。



奥 田 正 美
(梶原五丁目)

高齢化・担い手不足による遊休農地が増えておりますが、地域の実情に即した発生防止・農地集積など農業振興の発展に推進委員と共に取組んで参ります。

農地利用最適化推進委員



第6区域(三箇牧)
伊 口 孝
(三島江二丁目)

農業後継者不足が一番であり解消する事が農業専用地域耕作放棄地及び遊休農地等の増加を少なくするため、農業後継者を増やす事に取り組んでまいります。



第5区域(大冠・富田・如是)
加 藤 康 司
(富田町四丁目)

地域の実情を考慮し、遊休農地や耕作放棄地が有効活用できるように取り組んでまいります。



第4区域(阿武野・芥川)
下 村 栄 作
(郡家本町)

都市農業では高齢化や担い手不足による遊休農地・耕作放棄地が増加傾向のため、解消に向けて各地区の皆様とも連携し取り組んでまいります。



第3区域(五領・磐手)
長谷川 剛
(梶原一丁目)

農業従事者の高齢化、後継者不足に伴い耕作放棄地が増加してきています。そのため、農業委員とともに改善できるように取り組んでまいります。



第2区域(清水)
石 田 和 義
(大字原)

遊休農地や耕作放棄地の解消、新規就農の促進などに農業委員等と協力して取り組みを進めるとともに、後継者及び農業協力者の育成に取り組んでまいります。



第1区域(梶田)
畑 秀 春
(大字中畑)

目の前の課題に真摯に向きあうということは10年先100年先の人々にも思いを至らせ今の最善を選んでいくことだと、自分に言い聞かせています。

退任された
農業委員・推進委員の皆さま

【敬称略・五十音順】

(農業委員)

荒 木 昭 三 (大字川久保)
岩 為 俊 (成合中の町)
田 中 徹 (梶原五丁目)
向 井 俊 夫 (土室町)

(推進委員)

土 井 一 弘 (古曽部町二丁目)
田 中 徳 藏 (奈佐原元町)
吉 田 隆 (東天川一丁目)
和 田 康 之 (唐崎中三丁目)

市とJAたかつきが連携して 有害鳥獣の対策強化

市は、JAたかつきとの包括連携協定に基づく事業として、有害鳥獣対策に連携して取り組みます。市内では、有害鳥獣による農作物への被害が深刻化しており、これまでも市とJAたかつき双方で被害防止に向けた取組を進めてきましたが、今回の包括連携協定を契機に、さらなる対策強化に乗り出します。

具体的には、高槻市有害鳥獣対策協議会が行うシカ・イノシシの捕獲を支援するとともに、サル対策についても共同で支援する予定です。農業者が安心して営農できる環境の整備に向け、被害防止を図ります。

農林業祭のお知らせ

日 時：令和8年11月14日(土)
10時～14時

場 所：嶋上郡衙跡

農畜産物品評会のお知らせ

日 時：令和8年11月12日(木)

場 所：嶋上郡衙跡

問合せ：農林業祭実行員会事務局(072-674-7402)

服部越瓜品評会が開催されました



7月23日にJAたかつき清水支店で服部越瓜の品評会が開催されました。

服部越瓜は高槻市の塚脇、西之川原、宮之川原、浦堂を中心に古くから栽培され、「なにわの伝統野菜」にも認証されている野菜です。市内では粕漬けとして親しまれています。

当日は19品が出品され、優秀賞には氏原正雄さん、優良賞には山本安男さんと岡山門也さんがそれぞれ選ばれました。

学習田で田植え 体験 初めての田んぼに笑顔

市内30校の小学生が学習田にて田植えを行いました。地元実行組合の皆様並びに農業者の皆様におかれましてはご尽力賜りまして誠にありがとうございました。

この取組は春には田植え、秋には稲刈りなどを子どもたちが体験することにより、農業や自然環境の保全の重要性を身近に感じてもらうことを目的としています。子どもたちは水を張った田んぼに入り、地元の方の指導を受けながら稲の苗を一株一株丁寧に植えていました。初めて足を踏み入れる泥の感触に戸惑う姿も見られましたが、次第に笑顔が増え、友達同士で声を掛け合いながら作業を楽しんでいました。



▲たくさんの気づきや学びがあった子どもたち。田んぼいっぱい元気な声が響き渡りました。



▲農家の方からの田植えの説明を真剣に聞いていました。子どもたちの背中からワクワク・ドキドキが伝わります。



▲「農家のみなさんありがとうございます！稲刈りまでお米のことをよろしくお願いします」と元気に帰っていきました。